

『Ⅱ ポータルサイト（プロトタイプ）構築のポイント
（２） 治験情報検索システムについて』

北里大学北里研究所病院バイオメディカルリサーチセンター 副部長
氏原 淳

【スライド_01】

本日、このパートを講演する予定であった二橋大輔が急遽出席できなくなりましたため私がプレゼンテーションさせていただくことになりました。二橋さんは、北里大学出身の薬剤師でありながら医療情報技の資格もち、医療システムの開発を専門として仕事としている研究協力者です。

専門的な部分に関しましては二橋が説明した方が遥かによいと思いますが、代理で私をご説明させていただきます。

【スライド_02】

まず、一般のかたを対象としたインターネットによる情報検索の基礎調査において、検索の流れを、パソコンにカメラを付けて画面を録画して、そしてユーザーのマウスや入力があるような遷移をしていくのかというのを解析したところ、いくつかの問題点を見出しました。

当然今まで出ている話でもあるのですが、「検索語が複数指定できることを皆さん知らない」、「ひとつのスペースを入れてもうひとつ検索語を入れれば、そこで and 検索ができるということ」などを、比較的パソコンの操作に慣れている方でもご存じないというようなことです。また、or 検索の仕方を知らないということも分かりました。そのために、入力欄に複数指定できるということを明記すること、それから類義語候補等で複数指定ができるということ、今シソーラスもありますが、そういったことが必要になるだろうということです。

【スライド_03】

それから、用語が統一されていない。これも話が出ておりますが、「すい臓がん」を入れるときに「すい臓」を漢字にするかひらがなにするかによって検索結果が違ってくる結果が出ます。実際に今の国立保健医療科学院のポータルサイトの中で「乳がん」と、「がん」の部分をひらがなやカタカナにした場合と、「がん」を漢字にした場合、実際の検索結果は「ひらがな・カタカナ」だと 181 件ヒットします。両方とも漢字で「乳癌」と入れると 470 件ヒットします。そのぐらいの差ができてしまいます。それもやっぱりどこかで吸収しなければいけないということで、それを事前に裏側でシソーラスをかせませる必要があるだろう

ということです。

【スライド_04】

それから問題点の三つ目。これは実際やってみて分かったことが、被験者の方々が、例えば自分はこういう病気です、病気に罹りましたということを想定してシナリオを作ったのですが、その病気の名前を一回検索して、次のページに行って、また戻ってゼロからもう一回同じ検索を入れて別なサイトに行くということをやっていることが非常に多かった。同じ言葉を何度も何度も入れ直しているということをやられているのですね。で、その検索結果がどうだったかということ覚えきれなくなって、また同じことを何度も繰り返しているということがありました。

これは先ほどの黒須先生の中の、ニールセンガイドラインのような話なのかなとも思います。その検索した履歴というのがきちんと残るようにした方がいいだろうという結論に至りました。

【スライド_05】

それから問題点の四つ目。画面が変わっていくと混乱する、ということ。だから、検索したらその下に、その画面に結果を出して欲しい、新たな画面をポップアップだとか別なウィンドウを開くと非常に混乱します。一般の方々の認識からすると、画面が変わってしまうと次がどうなるのかということ予測ができなくて怖くなってしまう。なので、戻る操作を繰り返してしまうんじゃないかというような話もありました。ですから画面の遷移というのは基本的に行わないほうがいいだろうという提案です。

【スライド_06】

あとは、検索した結果がどこにマッチしたのか。例えば「乳がん」と入れてずらずらっと結果が出てきて、じゃあどこの項目に乳がんを書いてあるのかというのをマーキングしたほうが分かりやすい。ブラウザの機能にはコントロール+Fを押すと検索という窓がポンと開いて、そこに入れると、今表示しているその画面の中の文字が検索できるというのがありますが、そのことをユーザーはご存じないのが当たり前、という認識で臨まなければいけません。ですので、その検索した結果は、ここがマッチした場所だ、と明示する必要がありますということです。

【スライド_07】

それから問題点の六個目。基本的に検索した結果全項目がポンと出てきてしまうと、検索するユーザーからすると、全項目を見たいわけじゃない、自分はこの項目が見たいんだということで、項目をチェックして、そのリストが出るような形になるといいというよう提案をいただきまして、その部分を指定でき、かつその項目を維持されるようなものを作

ってはどうかというような提案をしてきました。そして実際にそれを試作してみたわけです。ちょっと画面をご覧ください。

二橋はユーザビリティといいますか、デザインの方は苦手だそうでした、どうやってここに誘導するかということはあまり考慮されていません。機能を作っただけであって、この説明とかデザインは考慮せずに仕組みだけを作ったものです。

とりあえずここに「乳がん」と入れます。今ひらがなで入れましたけれども、ここで追加を押すと、まず裏でソーラスが動いていて「乳がん」と入れた場合にこのオレンジ色の枠の字が、「探しているのはこれじゃないですか」ということで、ここは or 検索がかかる、どれかを含むというところに放り込まれます。例えば これを、東京で行われている乳がんに関する臨床試験を検索したいという場合には、さらに「東京」と入れてもらう。

ここまでの誘導は別な説明が必要だと思うのですが、あくまでも機能だけということでご覧ください。そうすると、とりあえずこの入れた言葉は全てこのどれかというところに入ってきます。で、このどれかというところを、この検索をかけると、「乳がん」この上の三つのどれか、または「東京都」、どれかの言葉が入っているものというふうに検索されてきますので、当然「東京都」が入ってくれば、すい臓がんでも卵巣がんでも全部入ってしまいます、ということになります。ですので、この辺りを、「東京都」かつこの三つのグループの or 検索という結果を出さなければいけません。わかる人は Google 等で検索式を簡単に作れると思うんですが、一般の方にこれを分かりやすくするために、「東京都」は必ずだから「か」を押すと「必ず」に誘導する。で「東京都」が必ず入って、あとはこのうちのどれかが入って、これで検索をします。そうすると検索式はここに残った状態で、そして結果がこのように出てきます。

で、先ほどマーキングするといった「乳がん」という言葉がどこに入っているかということがここに出てくるということになって、こういった検索結果の表示がいいのではないかと。

例えばここで自分が、「樹状細胞ワクチン療法とかいうのを教わった。じゃあそれを調べてみる。」とします。「樹状細胞ワクチン」というのを入れて、追加を押して、とりあえず東京都はちょっとじゃまだからどいていといふとき、「お取り置き」という機能で、「お」のところをクリックすると移動します。で、ここの「樹状細胞」が「必ず入る」ので、この3つで検索ができます。そうするとこの結果が出てくる。3つ出てきました。こういう形で自分がどこを検索したかが分かるようになるわけです。

先ほどの結果、「東京都」でもう一回検索したい、という場合は、この部分をクリックすると、その前にたたえた検索式がそのまま残っておりますので、また前の検索結果を表示することができるということになります。

もう一度この検索結果をご覧くださいますと、この中にマーキングされているものがない結果もあるのです。実際この下の二つはありません。じゃあなぜ表示されているのかということでこの中身を確認すると、このプロトコルでは乳がんの再発は除外基準にヒット

しているのですね。このように除外基準も検索結果に引っ掛けてきてしまうということがおきてしまいます。こういうことも実際やってみて分かったことです。この辺は WHO の必須 20 項目のというのが規定されているのですが、その中の選択／除外基準は項目上分かれてはおらず、ひとつの枠の中に入れてしまっていて、結局この部分をどちらなのか判断することができないのです。結局、この問題はデータベースの基本形の構造の改善が必要な部分でもあります。

このように課題はありますが、検索をいかにうまくやらせるか、そして一般の方々にもわかりやすく、混乱のないような形を作るかということを実際に機能として作りました。実際私もよく分かってはおりませんが、この裏ではかなり複雑な作業が入っているそうです。この後、この機能を使って最後のポータルサイトの紹介で改めて説明をさせていただきます。私のプレゼンは以上です。



パソコンに不慣れ人の検索について

二橋大介

1



問題点1

- 検索語が複数指定できることを知らない
 - 11月のリハーサルで、ある程度「パソコンの素養がある利用者」でも「すい臓 膵臓」のように、検索語を複数指定することができない人が意外と多い。

- 解決策
 - 入力欄に複数指定できること、類義語候補選択などで複数指定ができることを促す

2

問題点2

- 用語が統一されていない
 - 「腓臓」も「すい臓」も同じものだし、そもそも「すい臓」と指定しただけで「すい臓」も「腓臓」も検索したいはず。

- 解決策
 - 事前に裏側で類義語集を作成しておき、検索時に「もしかして、、、」を表示する

3

問題点3

- 検索履歴の管理
 - 11月のリハーサルでは、同じ検索語を繰り返し、入力している人が意外と多い。
 - 検索を繰り返すうちに「何で検索したか？」「検索結果がどうだった？」などが覚えきれなくなっている？

- 解決策
 - 検索した履歴と、その時の該当件数を表示する。

4

問題点4

- 画面遷移は困惑する
 - パソコンに不慣れな人は「画面の遷移(画面が変わること)」を嫌う傾向にある。
 - これは「次にパソコンがどんな動きをするか？」が予測できないため、いきなり画面が変わるのはと困惑でしかない。
- 解決策
 - そもそも治験情報が定型で情報も少ないので、「一覧から詳細を選択」ではなく、「一覧と詳細を一緒」にしても問題ない。
 - あわせて「検索」「結果表示」などの画面全体を1画面でおさめる。

5

問題点5

- どこにマッチしたのか？
 - 入力した検索語が「どこにマッチしたのか？」がわからない。
 - ブラウザの機能で「文字列を検索」できるが、使いこなせるとは思えない。
- 解決策
 - マッチした部分の色を反転させるなどして、「ここにマッチした！」を明示する。

6



問題点6

- 表示する項目の指定
 - 前回の班会議で真島さんから「全項目を見たいわけではないが」「毎回だいたい同じ項目」の問題

- 解決策
 - 表示項目を自分で指定でき、かつその状態を維持される？

『Ⅱ ポータルサイト（プロトタイプ）構築のポイント

（3）リンク先サイトと評価方法について』

北里大学医学部衛生学 講師

星 佳芳

【スライド_01】

それでは私の方から、リンク先サイトと評価方法についてお話をします。北里大学医学部衛生学の星 佳芳と申します。よろしくお願ひいたします。

【スライド_02】

皆さん、リンクを貼るとかリンクを付けるというときに、もしかしたら漠然とこの三つの方法を想像してらっしゃる方がいるかと思います。「リンク集」から外部のサイトへ飛ぶというリンク、またはサイト中の本文などからリンクを貼って、内外のコンテンツやサイトへ飛ばす、これはよく用語集の解説に遷移するというふうなときにも使われますね。それと反対に、外部のサイトからリンクを貼ってもらって自分のサイトへ誘導してもらうというリンクがあるわけです。今回の研究班では三月までに外部に公開するということをしませんので、3つめにお示ししたものは今回お話をしません。一番上のリンク集から外部のサイトへ、というところをお話したいと思います。

【スライド_03】

まずリンク集を作るときに、その果たす役割について考えてみますと、国内外の臨床試験に関する他のサイトや情報を紹介する、という役割があります。これはときどきパスファインダーというような表現をされることがあります。それから何か、自分たちのサイトよりももっと詳しい解説があるところに飛ばす、というような役割を担う場合も多いと思います。

そしてそれを紹介するときに、それでは、どのようなサイトを紹介するか、ということになりますと、同様のサービスを展開する国内外のサイトや、WHOのような国際的なサイトもあげられると思います。

それから疾患に特化した臨床試験情報だけを集約したサイトに飛ばしてあげる、という方法も良いと思います。もう既に、「がん」だけとか、「難病」だけというのはサイトがあります。その疾患だけを見たいという患者さんの要望もとても高いと思います。

それから臨床試験を理解するための周辺情報として、例えばですけれども、臨床試験の結果であるエビデンス、あるいは、そのエビデンスの解説であったり、そのエビデンスが

用いられて作られた診療ガイドラインを見たい、そのような情報を提供してあげるという役割も考えられるかと思います。

それから同様の情報を共有したい、同じ病気で悩んでいらっしゃるとか、困難な局面に向かっているという人々が、つまり、共有したい人々が共有したい情報を閲覧しに行くということもありかと思います。例えば、例としては患者さんの語りのデータベースというようなものにリンクを飛ばしてやる、というのも良いかと思います。

【スライド_04,05,06】

今リンクの話をしました、実は米国国立がん研究所には、そのリンクをどのように貼れば良いかというユーザビリティに関するガイドラインもあります。「Research Based Web Design and Usability Guidelines」といって、公開されておりまして、最近はずごく検索がしやすくなりました。前はPDFで200ページぐらいは印刷することになっていたの、とても分かりやすくなったので一度ご覧になってください。

その中でChapter10、10章目に、Link to Supportive information といっ、こういうふうにリンクを貼るといいですよという、リンクの貼り方：良い例等も出ています。このページですと、ほかの用語集に別の画面でウィンドウを立ち上げて見せる、という例が紹介されております。

【スライド_07】

それでは、どんな情報にリンクを貼るかと考えますと、少し上から目線で表現しますと、「そちらのサイトに、私たちのサイトが良い情報だと判断しているというお墨付きを与えて良いか？」ということをお考えなくはいけません。反対に私たちの研究班からリンクを貼る場合に、まるで私たちがその情報を作ったように、一瞬見えてしまってもいけないので、「私たちが作ったように、関連があるように見えてしまっても良いですか？」というお伺いを立てなければいけないという問題もあるかもしれません。

そして、選ぶべき情報としては、実はもう随分前から日本でも研究をされておりまして、例えば今日いらしている丁先生等も「消費者向け医療情報の評価ガイドライン」という論文の中で、いろいろな評価メソッドを紹介されております。そのような研究結果で、もうかなり皆さんの中にもご存じの方いらっしゃると思うのですが、いくつかご紹介したいと思います。

【スライド_08,09,10】

これはHON code というものです。これはサイト上でinstrumentをダウンロードできるようになっております。日本語版もありまして、右側にお示ししたものが、みんなが欲しがるとなるHON codeのマークです。このHON codeの偽物マークまで出回っていると聞いたことがあります。現在は5533のサイトがHON codeのお墨付きをもらっていて、72の国に

及んでいるそうです。そして 32 の言葉、言語のものが HON code 印をもらっているということです。右側に Example としてありますが、もちろん PubMed は、HON code 印をもらっているということになります。

【スライド_11】

それからもう一つ、患者向けの情報評価インストルメントとして、オックスフォード大学の DISCERN というものを紹介したいと思います。この DISCERN は点数付けができるようになっておりまして、ただし日本語訳がありません。点数で表すことができるので、少し優劣をつけたいというときに良いかもしれないです。

【スライド_12】

それから日本にもちゃんとありまして、日本インターネット医療協議会というところが、「インターネット上の医療情報の利用の手引き」というものを公開しております。最近このサイトもすごく、また一段と美しくなって、見やすくなったかと思えます。

【スライド_13】

これらの、今私が三つご紹介しました中に書いてあることを、ちょっと私なりにまとめます。HON code を中心に、どのようなことに気を付ければ良いか、つまりリンク情報として相手方を選ぶときに、または向こうから来てもらったときに、自分たちがどういうふうにして、サイトを構築しているべきかということを考えてみます。サイトを選択するときと、そして私たちが情報を提供するときを気を付けるべきことというものをまとめてみました。

最初に、情報提供の主体が明確なサイトの情報を利用すべきですね。サイトを構築したり、運営したりする組織や人の資金源がちゃんと書いてあるかどうか。

それから、営利性のない情報をなるべく利用したいと思います。

次に、客観的な裏付けがある科学的な情報であるかというのが示してあること。

それから、公共の医療機関、公的研究機関により提供されている医療情報、または専門的な教育を受けている人が提供する情報を利用したい。またそれがちゃんと明記されていないと、誰が作ったか分からないですね。ホームページの URL、アドレスを見て、どうやらここが作っているらしい、というのではちょっと明確じゃないと思います。また、もし専門的な教育を受けていない方が作ったとしても、それが明記してあれば、助かるかと思えます。そして、専門家だけが正しい情報を発信できるというわけでもないことを、皆さんよくご存じかと思えます。

次に、常に新しい情報を利用したいと思いますので、情報の更新日を明記したいと思います。反対に、明記してあるサイトを選びたいと思います。

【スライド_14】

それから六番目。複数の情報源を比較検討した上で、私たちはリンク情報を提供したいと思います。

それから、情報の利用は自己責任が原則です、ということをちゃんと明示したいと思います。

それから、疑問があれば、専門家のアドバイスを求めるように周知したいと思いますし、そのように周知してあるサイトを選びたいと思います。つまり、こういうポータルサイトというのは、患者さんと医療者がいがみ合うために作るのではなく、患者さんと医師の関係を支援する目的で作成するものであって、そのようなことに留意して作成された情報を私たちもリンク先として選びたいと思います。

それから、情報利用の結果を冷静に評価してほしいということを、どこかに書きたいと思います。そして、書いてあるサイトを選びたいと思います。一例ですが、私自身の知り合いが、膵がんを今日告知されたといって相談を受けたときがありました。「それは主治医とよく相談した方がいいですよ」とお伝えしましたが、三か月後に電話がかかってきたときには、日本では思うように治療が受けられない、治験を調べていてどうしようもないからアメリカに行くと言って、もう気づいたらアメリカ行きを決めていらしたのです。確か、日本でも全く同じ治療だからと説明されたようで、治療を受けず、またアメリカから戻ってきたのです。その時は、体力も無く、車いすで飛行機から降りてきたそうなんです。そういう人は、本当に冷静に、日本で良い医療者と話ができれば、そんなふうな数か月を過ごさなくて済んだかもしれないのですけれども、そんな人にも、本当にためになる窓口となれば良いなあと思います。

そして、ユーザが質問や問い合わせができる窓口を持っているということは大切なことだと思います。私は北里大学の臨床研究センターで研究の支援の仕事もしていますが、ときどき患者さんからのお問い合わせが迷い込みます。私たちは臨床研究をしていて、企業からの依頼の治験とちょっと関係ないところなんです、どこにも問い合わせられないと、八方ふさがりだと思ってらっしゃる方がいらっしゃるようで、ときどきそのようなお問い合わせを受けるときもあります。ここに分からないことを聞いてみようと思って、もし問い合わせが来ても、それは私たちではなく、ここに聞くといいですよという、パスマインダーという役割を持てるかなと思います。ただし、そのようなお問い合わせを受ける体制を作るのは資金が必要ですし、大変な労力だと思います。

それから、トラブルに遭った時にはちゃんと専門家に相談してくださいねというふうに周知したいし、そのように周知してあるサイトを探したいなと思います。

【スライド_15】

これまでお話ししたことで、随分、今、私はかなりハードルを上げてしまったんですが、本当にサイトを選ぶのは難しいです。この度、私たちの研究班のメンバーで、ここにリン

クを貼ると良いのではないかなという意見をみんなが寄せ合ったのですが、すごく素晴らしいリンク集になりそうな気配ですね、こんな評価インストルメントはいらなかったかな、というぐらいの素晴らしいサイトになりそうなんです。それはやはり専門家の意見として今まで蓄積されてきたご経験というのも、貴重なんだなと思いました。また、今までご紹介した評価のインストルメントでは、形式的な評価のみです。患者さんの個人の満足、本当に患者さんが目の前の問題に役に立ったかというのはさまざま、この評価のインストルメントの形式的な評価だけでは計りえない、ということが明確になっているかと思えます。

平成25年度 有田班
第1回フォーラム



リンク先サイトと評価方法について

北里大学医学部 衛生学

2014.1.12

星 佳芳

1

リンクをはる！



- 「リンク集」から外部のサイトへ
- サイト中の本文などからリンクをはり内外のコンテンツやサイトへ
(例:用語集への遷移)

.....

- 外部のサイトからリンクをはってもらい自サイトへ誘導

2



リンクの果たす役割

- ・国内外の臨床試験に関する他のサイト・情報を紹介する。(パスファインダー・解説)
- 同様のサービスを展開する国内外のサイト
- 疾患に特化した臨床試験情報を集約したサイト
- 臨床試験を理解するための周辺情報
- 例: 臨床試験の結果であるエビデンス
(エビデンスの解説、診療ガイドラインetc)
- 同様の情報を共有したい人々が閲覧する
サイト 例: 患者さんの語りetc

3



米国国立がん研究所 Research-Based Web Design and Usability Guidelines




<http://guidelines.usability.gov/guidelines>

The screenshot shows the usability.gov website. At the top, there is a navigation bar with the text "usability.gov Improving the User Experience" and a search box. Below the navigation bar, there are three main sections: "What & Why of Usability", "How To & Tools", and "Get Involved". The "How To & Tools" section is currently selected. Below this, there is a breadcrumb trail: "Home > How To & Tools > Guidelines > Usability Guidelines". The main content area is titled "Usability Guidelines" and includes a search box with the text "Search by entering keyword(s) and clicking the search button." Below the search box, there is a "Keyword(s):" field and a "Filter by Category:" dropdown menu. At the bottom, there is a "Guideline Chapters" section with a list of chapters: "Chapter 1: Design Process and Evaluation", "Chapter 2: Optimizing the User Experience", and "Chapter 3: Accessibility".

4

Research-Based Web Design and Usability Guidelines

Chapter 10 : Link to Supportive Information

	Chapter 10: Links
	Introduction
	Section 1, Use Meaningful Link Labels
	Section 2, Link to Related Content
	Section 3, Match Link Names with Their Destination Pages
	Section 4, Avoid Misleading Cues to Click
	Section 5, Repeat Important Links
	Section 6, Use Text for Links
	Section 7, Designate Used Links
	Section 8, Provide Consistent Clickability Cues
	Section 9, Ensure that Embedded Links are Descriptive
	Section 10, Use 'Pointing-and-Clicking'
	Section 11, Use Appropriate Text Link Lengths
	Section 12, Indicate Internal vs. External Links
	Section 13, Clarify Clickable Regions of Images
	Section 14, Link to Supportive Information

5

リンクの貼り方; 良い例

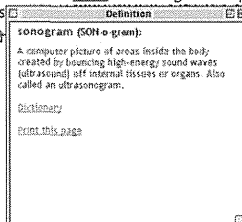
Good Example: ★

Clicking on a highlighted word brings up a 'pop-up' box which provides the user with the definition of the selected word.

Tests that examine the breasts are used to detect (find) and diagnose breast cancer.

If an abnormality is found, one or all of the following tests may be used:

- **Ultrasound:** A test that uses sound waves to create images of areas inside the body. Sound waves are bounced off internal tissues and organs. The echoes are changed into called **sonograms**. The doctor can identify tumors by looking at the sonogram.
- **Mammogram:** A special x-ray of the breast that may find tumors that are too small to see. A mammogram can be performed with little risk to the fetus. Mammograms in pregnant women appear negative even though cancer is present.
- **Biopsy:** The removal of cells, tissues, or fluids from a body to check for disease.



<http://guidelines.usability.gov/guidelines>

6

どんな情報にリンクする？



「お墨付きを与えて良いか？」

「関連を持つように見えてしまって良いですか？」



選ぶべき健康情報とは？

「消費者向け医療情報の評価ガイドライン」

斉尾・丁・松本・栗原(臨床と薬物治療 2001)

7

HONCODE(アイオワ大学)

EH | FR | DE | SP | PL | CN |

HONcode PATIENT / INDIVIDUAL MEDICAL PROFESSIONAL WEB PUBLISHER

HONcode | HONsearch | HONtools | HONtopics

Trustworthy health sites Search

What is it?

HONcode certification

- Introduction
- How it started
- Methodology
- Users
- FAQ

Policing & Supervision

- Policing
- Complaints
- Certificate & Seal
- Updates

Navigate safely

Last Certification Activity

Feedback

HONcode principles

> Download our presentation
Trustworthy health and medical information: the Health On the Net initiative

Listen

The Health on the Net Foundation Code of Conduct (HONcode) for medical and health Web sites addresses one of Internet's main healthcare issues: the reliability and credibility of information.

The HON foundation certification focus only on human health online content.

The Internet has become one of the most widely-used communication media. With the availability of Web server software, anyone can set up a Web site and publish any kind of data which is then accessible to all.

The problem is therefore no longer finding information but assessing the credibility of the publisher as well as the relevance and accuracy of a document retrieved from the Net.

8

健康関連ウェブサイトの情報提示のルール Health On the Net Code of Conduct (HONcode)

<http://www.hon.ch/HONcode/Conduct.html>
(日本語版もあり！)

The screenshot shows the HONcode website interface. On the left is a navigation menu with categories like 'HONcode', 'Presentation', 'How to apply', 'Policy', and 'Principles'. The main content area is titled 'Principles' and lists several guidelines under different principle numbers. An arrow points from a 'HON @ CODE' logo on the right towards the 'Principles' section.

9

The screenshot shows the 'HONcode Facts' page. At the top right is the HON logo and the text 'Health On the Net Foundation'. Below the logo is the URL 'www.healthonnet.org'. The main heading is 'HONcode Facts'. The content is organized into two columns:

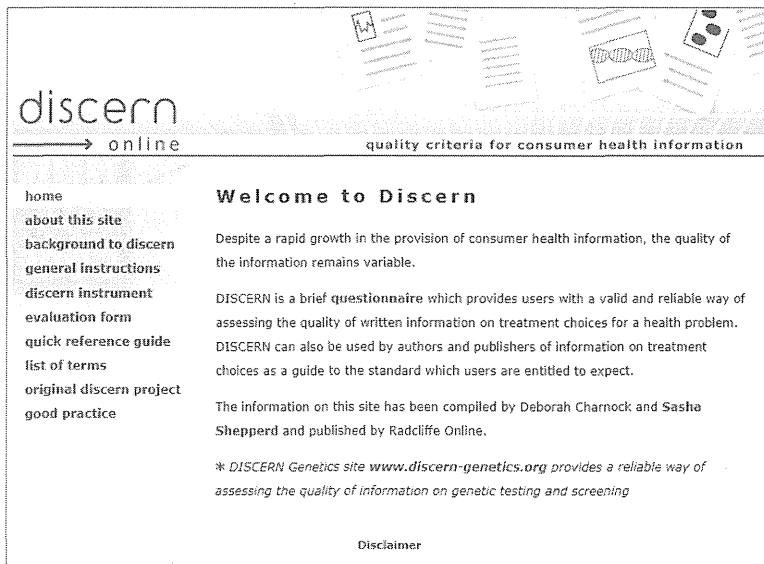
- Facts:**
 - 5 533 sites
 - 72 countries
 - 32 languages
 - 1,200,000 web pages accredited
 - 17% of Catalan and Spanish web sites
- Examples:**
 - webpacientes.org
 - Portal Mayores: imersomayores.csic.es
 - linfoma.roche.es
 - Asociación Española de Pediatría
 - Hospital 12 de Octubre ClinicalTrials.gov
 - The National Urban League
 - MEDLINEplus.gov
 - PubMed
 - WebMD
 - Stop-tabac.ch
 - Diabetes Netzwerk Deutschland
 - Sociedad Argentina de Pediatría

10

オックスフォード大学



DISCERN (患者向け情報評価インストルメント)



The screenshot shows the DISCERN website with the following content:

discern
→ online quality criteria for consumer health information

home
about this site
background to discern
general instructions
discern instrument
evaluation form
quick reference guide
list of terms
original discern project
good practice

Welcome to Discern

Despite a rapid growth in the provision of consumer health information, the quality of the information remains variable.

DISCERN is a brief questionnaire which provides users with a valid and reliable way of assessing the quality of written information on treatment choices for a health problem. DISCERN can also be used by authors and publishers of information on treatment choices as a guide to the standard which users are entitled to expect.

The information on this site has been compiled by Deborah Charnock and Sasha Shepperd and published by Radcliffe Online.

* DISCERN Genetics site www.discern-genetics.org provides a reliable way of assessing the quality of information on genetic testing and screening

Disclaimer

11

日本インターネット医療協議会

「インターネット上の医療情報の利用の手引き」

<http://www.jima.or.jp/userguide1.html>



The screenshot shows the JIMA website with the following content:

日本インターネット医療協議会
Japan Internet Medical Association

TEL 03-6721-1472 FAX 03-6721-1473 〒107-0062 東京都港区南青山4-5-25 シンクレア南青山201号

医療分野における情報・サービスの信頼性確保の環境づくりをめざします

- 自主的基準“eヘルス倫理コード”の策定運用
- 同基準によるホームページの審査とマーク付与
- 医療分野でのIT利用に関する調査研究

トップページ お知らせ JIMAについて トラストプログラム 入会のご案内 活動予定&報告 お問い合わせ

FAQ 事務局ブログ

総合メニュー **トップページ**

特定非営利活動法人日本インターネット医療協議会(JIMA)のホームページへようこそ。

12

リンク情報の選択と提供



- 1 情報提供の主体が明確なサイトの情報を利用する
(サイトの構築・運営資金源)
- 2 営利性のない情報を利用する
- 3 客観的な裏付けがある科学的な情報を利用する
- 4 公共の医療機関、公的研究機関により提供されている医療情報/専門的な教育を受けている人が提供する情報を主に利用する(専門的な教育を受けていない人による情報の時は明記する)
- 5 常に新しい情報を利用する(情報の更新日を明記)

13

リンク情報の選択と提供



- 6 複数の情報源を比較検討した上で提供
- 7 情報の利用は自己責任が原則(であることを周知)
- 8 疑問があれば、専門家のアドバイスを求める(よう周知する)→患者と医師の関係を支援する目的で作成された情報
- 9 情報利用の結果を冷静に評価する(よう周知する)
- 10 ユーザーが質問・問い合わせる窓口を持つ
- 11 トラブルに遭った時は、専門家に相談する(よう周知する)

14